

研究 Report



No. 2 令和4年7月 池袋本町小学校

今年度の研究主題“自分らしい生き方を求める児童の育成―「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して―”を踏まえ、低学年では、「自分の考えをもてる児童」、「自分と友達の考えの違いを受け入れられる児童」、「自分の気持ちを相手に伝えられる児童」の育成を目指しています。第2学年では、「人(友達、身近な人)とのかかわり」に焦点を当て、授業を行いました。

今回の研究 Report では、2年1組の研究授業の様子をお知らせします。

- 1 講師 新宿区立戸塚第一小学校校長 表迫 信行先生
- 2 主題名 「相手を思いやって」(B 親切,思いやり)
- 3 教材名 「ぐみの木と小鳥」
- 4 授業内容



【本時の目標】

親切にしたりされたりすると、どんな気持ちになるかについて考えさせ、困っている人などに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

【主な学習活動】

導入

児童が自分のこととして捉えられるように、今までの親切に関する経験や、事前アンケートの結果を共有したり提示したりしました。



展開前段



読み物資料「ぐみの木と小鳥」を読んで考え、話し合いました。

○ぐみの木からりすの話を聞いた小鳥はどんな気持ちになったのか。

○やみそうもない嵐の中で、小鳥はどんなことを考えていたのか。

（中心発問の内容）

○ぐみの実を届けてもらい、りすはどんな気持ちになったのか。

○りすから「ありがとう」と言われ、小鳥はどんな気持ちになったのか。

この4つの発問から、相手を思いやる親切について、自分で考えたりペアで話し合ったりしながら学習しました。

展開後段

自己の振り返りでは、自身の親切にした経験や親切にされた経験を思い出し、その内容と自分の気持ちを考えました。

- ・落とし物を友達が拾って届けてくれて、助かった。
- ・1年生と学校探検をしたときに、「ありがとう。」言われたり手紙をもらったりして嬉しかった。
- ・自分が親切にしたら相手が喜んでくれたのを見て、自分もいい気持ちになった。もっと親切にしたいと思った。

などの考えが出ました。



終末

授業の終わりには、担任が親切にした経験について話をしました。相手のことを思いやった行動に意識を向けたり、心がけたりすることが出来るように、今後も子供たちを見守っていきます。